

# 浄泉寺通信

第19号  
年4回発行  
浄土真宗本願寺派  
吉見布教所浄泉寺  
埼玉県比企郡長谷  
1678-6  
電話0493-54-8803  
発行責任者 福井学誠

曹洞宗のネルケ無方さんをお招きし、10月3日に第4回「いのちの法話会」を開きました。以下はその抄録です。



ネルケ無方さん

一度、天

仏教とはどのような教えかを一緒に考えてみたいと思います。仏教には三つの側面があるように思います。第一に「私が仏になる」という側面です。釈尊が説かれた教えに、この言葉が最も近いと思います。私

女が舞い降り羽衣の袖でその岩をやさしく撫でる。それを繰り返すことで長い時間をかけて岩がすり減って無くなるまでの時間がひとつの阿僧祇劫で、それが三つもある。

に三阿僧祇劫という長い時間が必要。阿僧祇劫とは時間の単位

という人間がいかに生き、いかに死ぬべきか、この苦しみからいかにして解き放たれるか。釈尊は二千五百年前に気づき、実践し、仏になりました。釈尊は以来四十五年間にわたり、インド各地を巡って教えを説きました。釈尊の姿はしばしば医者にたとえられますが、医者病者を診て処方箋を出すことはできても、薬を飲むのは私であり、薬を飲むか飲まないか、そしてリハビリをするかどうかは私次第です。釈尊は実物の見本であって、救世主ではありません。そこがキリスト教との実に大きな違いです。これだけが仏教の教えだという人もいますが、私はそうは思いません。凡夫が仏になるため

第二は無我の教えです。無我を説きながら、釈尊はその一方で涅槃に入られて、お弟子をみんなを置いていった。そのため後に興った大乘仏教、とくに浄土教では法蔵菩薩を軸に、助けを求めるすべての人をすぐいたいという願いを立てるといって経典が現れました。そこには自分一人では仏にならない、みんなを救いたいというメッセージが強く表れています。それが日本で浄土宗、浄土真宗となつて広まっています。法華経では釈尊は本当は死んでいない、芝居だったんだと説いています。死んではおらず、目に見えないが私たちを見守ってください。浄土教では自分と言うものを手放してこそ、

阿弥陀如来が救ってくださいとあります。本日午前中に坐禅会をいたしました。最初は誰も、「自分が頑張つて坐禅をするんだ」と意気込みますが、ある時から「わたしが坐禅をする」という意識から「坐禅がわたしをする」という意識へ転ぜられる。大いなる力に抱かれて、坐禅をさせていただいていると気づく瞬間があります。他力のようなものへの気づきが、坐禅のなかにもあるので、これは一人称の仏教ではなく、いわば二人称の仏教といえます。あちらからやつてくる他者と、自分とで成り立つ。浄土真宗の念仏を私たちが禅宗では唱えませんが、それは永遠の存在そのものの名です。

三人称の仏教もあると思います。道元禅師の晩年の和歌にこうあります。「おろかなる吾れは仏けにならずとも 衆生を渡す僧の身なれば」(『傘松道詠』)。自らの愚を嘆き、私がつたえ仏になることができずとも、人々が救われてさえくれればそれで僧の勤めを果たすことができる。自分最後でいい。他者の救済をまず優先する菩薩道です。いま挙げた三者はいずれも根っこは同じです。自然法爾をどう考えるかという質問がありました。これは親鸞聖人がおっしゃる言葉で、阿弥陀如来と

この大きなはたらきに任せて生きるということ。自分の力で頑張るという考え方は対極の、自ずから然らしむ、自ずとはたらくものに任せ。道元禅師のお言葉にこうあります。「ただわが身をも心をもはなちわすれて、仏のいへになげいれて、仏のかたよりおこなはれて、これにしたがひもてゆくとき、ちからをもらえず、こころをもつひやさずして、生死をはなれ、仏となる」(『正法眼蔵』)。このお言葉は親鸞聖人のお考えに非常に近いと思います。自分を手放してこそ、「仏のかたより」、つまり向こうから力をいただくことができ、仏となる。蓮如上人の御文章にも「仏のかたより往生は治定」とありますね。この力が自分を通してはたらく。クヨクヨする自分を手放して、阿弥陀如来の力が私を通してはたらく。これがまさに自然法爾ではないかと思えます。一般に道元は自力、法然と親鸞は他力と言われますが、そうではないと私は思います。坐禅においても、日々の生活においても、私を投げ出し、向こうから帰ってくる力をいただいて、生かされて生きる、あれだけ遠かった仏は実は自分の後ろにいた、自分の後ろを押しつけていたという気づき

につながるのです。(談)



富山県上市町の浄泉寺住職継職法要が今年6月つとめられ、私(写真右)の父(中央)から兄(左)へ、バトンが渡りました。

前任職は先代住職が昭和49年に74歳で示寂した後、40年余り富山浄泉寺の護持発展につとめて参りました。退任に際して前任職は「気がつけば喜寿が目の前。このあたりで次の世代にまかせるべき」と申します。長年にわたる皆さまからのお育てを思い、私も胸にこみ上げるものがございました。

京都のご本山、西本願寺と大谷本廟に参拝する一泊旅行のご案内です。部分的な参加(ご納骨を一緒にしたい、現地集合現地解散等)でも構いません。

11月23日月・祝6時西本願寺朝のおつとめ参拝(帰敬式) | 秋の法要にて合唱 | 夕方方京都駅より新幹線 | 東京駅着  
参加費34,024円(新幹線のみ往復料金と宿泊費)

11月22日  
(日)10時台の  
新幹線で東  
京駅発 | 13

西本願寺参拝旅行のご案内

線のみ往復料金と宿泊費) | ご門主様

時頃京都駅着 | 西本願寺書院と飛雲閣を拝観 | 大谷本廟参拝(ご納骨) | 市内にて夕食 | 西本願寺そばの東横イン泊

から法名を頂く帰敬式を、皆さん一緒に受式します。ご希望の方は1万円を追加ください。  
参加締切 11月15日(日)

【浄泉寺の今後の活動】

- 月 日 土 時半 (毎月開催)
- あいる書道会 (浄泉寺本堂)
- 月 日 日 時半 (隔月開催)
- 浄泉寺コーラス練習 (浄泉寺本堂)
- 月 日 金 時 (毎月第三金曜夜)
- 親鸞聖人御消息講座 第 回  
(フレサよしみ・埼玉県吉見町)
- 月 日 金 時 (毎月第三金曜夜)
- 親鸞聖人御消息講座 第 回  
(フレサよしみ・埼玉県吉見町)
- 月 日 土 時 (隔月開催)
- 写経会 (浄泉寺本堂)
- 月 日 木 時
- 除夜会 (浄泉寺本堂)
- 月 日 金 時
- 元旦会 (浄泉寺本堂)
- 月 日 日 時半
- 新年のつどい (浄泉寺本堂) お餅つきと子ども会を兼ねます。ご家族皆さんでどうぞ。
- 大晦日と元旦におつとめいたします。年納めと年初めに一緒にお経を読みましょう。



月 日に浄泉寺の開山式がつとまりました。富山浄泉寺の門信徒の皆さま、埼玉浄泉寺の門信徒の皆さま、ありがとうございました。形あるものは、いずれ無くなる定めです。古民家の本堂はとても素晴らしく建物も魅力ですが、お寺に集う人が魅力的だといずれは言われたいなあと思います。これから落葉の季節を迎えます。樹木のいのちの営みに、人のいのちのはかなさとありがたさが重なり、今日もお念仏が出てきます。(住職)